

被災調査報告（3月19日～20日分）

仙台CILたすけっとでの聞き取りを中心に

19日

新潟からの高速バスで10時半ごろ到着。仙台駅前にはJRの運休で、店もほとんど閉店。人もまばら。駅の通り抜けができないため、裏側の地下鉄入口まで行くにも一苦労。通りかかった中学生くらいの子が、口で説明できないと親切にルートを案内してくれました。地下鉄は北側は一部通行止め。CILたすけっとのある南方面は大丈夫。夜11時ごろに到着。

CILたすけっと

障害者は男性9名女性2名

建物に大きな被害はないが、壁に亀裂、入り口付近の歩道は一部陥没していた。

ライフラインは震災直後ストップしたが、近所で発電機を持っている人がいて貸してくれ、明かりなどは確保できた。

3日目には電気と水道が復活。今はプロパンであるため、ガスも復活している。（天然ガスの地域は未だストップ）

一時は障害者7名と職員等、15名程が事務所で避難生活をしていました。今はほとんどが自宅。副代表の長井さんが福祉避難所となっている太白障害者福祉センターで避難生活をしている。

ドリームゲートとは隣町（名取市）ではあるが、これまでも関係が深く、物資等の供給を受けた。その後もJILと連絡を取り、物資供給を受けている。

地元団体とは、会議などで顔を合わす関係にあるが、現状ではまとまって支援にあたっているわけではなく、情報交換があまりできていない。

CILたすけっととしては、緊急態勢で毎日の活動をしているため、職員も他の人の支援にかかりっきりになっているが、障害者メンバーの生活を復活させるには、この人手が足りない。

1軒おいて隣にスーパーがあるが、連日7時前から人が集まりだし、開店時には500mをこえる行列ができ、昼ごろまでその状態が続いている。自分たちには全国の支援のおかげで物資もあり、ライフラインも復活している。他の困っている人たちに支援をしていかないと申し訳ない状態。少し離れた海岸通りは、悲惨な状態で、その光景を目のあたりにして、みんなができることはやっぴいこうと活動している。（といっても職員の方はずっと事務所にいて、家の片づけもできていない状態）

ただ「体は動くが、思考力が止まっている感じ。リーダー的な人に来てもらって、活動を支えてもらいたい。ゆめ風ネットの一員として、これまで宮城で災害が起きたら全力で支援にあたると言ってきたので、そのことを実践したい。

思った以上に時期が早く、規模も大きくて困惑している状態ではあるが」と藤川さん、菊池さん職員お二人が同じように語っておられました。

この日にはチーム神戸の金田真澄さんとドライバーの 2 名の方が、ドリームネットを経由して、支援に駆けつけてくださったということです。

(八幡はそのまま事務所に宿泊)

20日

9 時頃、山形の障がい者自立生活支援センターフリーワールドの代表 中島幸生(さちう)さんらが車 2 台で救援物資を届けにくる(ガソリン、灯油、ALS 患者用医薬材料など)。その後、同じ仙台の NPO 法人麦の会コッペの代表 飯嶋茂さんがボランティア要員として来所。コッペは、知的障害の人を中心に 17 名利用。メンバーは何とかみんな無事。作業所が片付き、電気も通ったので、冷凍していたクッキーの生地を焼いて近所に配った。連休明けには作業所を再開したいとのこと。

10 時、自宅待機していたメンバーも集まり、みんなで会議。ゆめ風ネットみやぎの一員として災害が起こったら頑張るといつも言ってきたことを、みんなで実践することを確認。当面は相談窓口の開設、物資の配給などを行っていく。今後、関係団体にも呼びかけ、連携した動きを作っていく。すでに会議前、会議中も色々な相談がきていた。

CIL たすけっとが支援拠点として展開していく準備があることから、今後電話の増設、印刷機の準備の他、ボランティアの宿泊先の確保を行う。

また、4 月 1 日に地元の障害者団体を集めて会議をする予定。

最後に障害者メンバーも支援者の中心としてできることをやっていると確認して終了(会議中にも少し大きな余震がありました)。

11 時半、ドリームネットの藤本さんと AJU 自立の家 山口真登香さん到着。ドリームネットとしても C I L たすけっとと連携して県下の支援を行っていききたいとのこと。ドリームネットはスペースがあるが、仙台の南の町でアクセスはよくない。

県下の被害として、ひどい状態にあるのは仙台の北側が多くを占めている。この辺りの支援方法を考えていきたいとのこと。

A J U 自立の家の山口さんは職場の協力をもらい、ある程度長期の支援を行うつもりで現地入りしているとのこと。

12 時、福島の ALS 協会の安田さんと連絡をとり、仙台の会員さんの窓口になってくれる人を紹介してもらい、山形から届いた医薬材料を届ける。窓口になっている伊藤さん宅は、「仙台往診クリニック」を開いていることもあり、現時点では会員さんの医薬材料不足は聞いていないとのことだった。

その後、C I Lたすけっとの副代表がおられる福祉避難所を訪問。この福祉避難所は、通常は太白障害者センターとして生活介護などの事業を行っている。仙台市障害者福祉協会が運営している（身体、知的、精神の三つの障害者団体が合同で作った団体）。地震が起きたのは、日中の活動が終了し、エレベーターの前でみんなが集まっていた時間。幸いトイレ介護なども終了し、エレベーターもまだ利用していなかった。エレベーターが停止したため、2階にいた利用者を階段を使って1階に降ろした。福祉センターに隣接し、町内会の自治会館、児童館、小学校がある。地震当日は、小学校に人が殺到し、避難スペースもなくなったとのことで、福祉センターにも人があふれかえったとのこと。福祉協会は障害者センターの運営にあたって「福祉避難所協定」も結んでいたが、細かな取り決めがなされていなかった。日中活動の場であるため、夜勤体制もない。地震が発生したことで、急きょ夜勤体制を組み、対応した。一般の避難所については、2日目には他の避難所を利用してもらうこととし、今は7名の利用者がいる。毎年、お祭りなどの行事をいっしょにやっていることもあり、自治会館の人たちには色々助けてもらったとのこと（電機や水の復旧が自治会館の方が1日早かった。水をもらったり、発電機を貸してもらったり、食材などの交換を行うなどもしている。2日目の町内会炊き出しも分けてもらった）。

物資関係は食材も含めて十分ある。危機管理と障害福祉の両方で行政が他の自治体から援助をもらっているようで、色々な自治体からの援助物資がある。ただ狭心症の人は、納豆やグレープフルーツが体に良くないということもあり、一人一人の既往症について把握できていないので不安があり、出すのを控えている食材があるとのことでした。

夜間体制はこれまで2人でやってきたが、ほとんど休む暇がないため、今日から3人体制にするとのことでした。当初の方針は、開設期間1週間程度。22日から通常業務をするとしていたが、入浴サービスのためにお湯を沸かす燃料がないなど不備なところも多いし、現在避難している人が自宅に帰れるかどうかもわからないため、現在は未定。

C I Lたすけっとの長井さん宅は、屋根に被害があったため、ブルーシートを張る必要があるが、予報では明日、明後日は雨で取りつけた作業ができるかどうかもわからないとのこと。長井さんの居住空間などを見せてもらい、訪問終了（長井さんにも支援を受ける立場から、支援をする人になってもらうことを確認しました）。